



あとがき Sylviane Ratte

このUICC報告書は子どもおよび環境たばこ煙についてタイムリーで、最新の情報を提供しています。小児、幼児および胎児は特に、受動喫煙の煙で確認されている何百もの有毒で発がん性のある物質への曝露により危険に曝されているのです。子どもは成人よりも多くの煙中の有毒化合物を吸引します。また子どもはある種の受動喫煙の煙に含まれる有毒成分を処理する能力が低いのです。喫煙している母親から生まれた乳児では出生体重が低い傾向にあり、受動喫煙にさらされた乳児は乳幼児突然死症候群(SIDS)を起こすリスクが高いのです。全ての子どもで、呼吸器感染、気管支炎および肺炎、喘息、咳、喘鳴、および中耳炎のリスクが高くなります。

国際的な科学的コンセンサスは明瞭かつ反論の余地はありません。たばこ煙に対し安全な曝露レベルというものはないのです。そして唯一の有効な保護法は100%スモークフリーの環境なのです。現在までに、世界中で151カ国(注: 151カ国と欧州委員会が締約国)がたばこ規制枠組条約を批准し、条約の第8条項を実行するための厳格なガイドラインを採択することによって、国民を守ることに最大の努力を払っています。国際的な最善策に従って迅速かつ厳格に職場および公共の場を100%スモークフリーにすることにより、受動

喫煙の曝露を全体的に大きく減らすことができるでしょう。

しかし、さらに必要なのは子どもが最もたばこの煙にさらされやすい場所、家庭および車、保育施設、学校で子どもを守ることです。この報告書はこのような場所でどう子どもたちを保護するべきかについて具体的な提言を行っています。自主的な手段の落とし穴を避けるために、国が取り締まることができるのであれば、そうすべきであり、環境が国の措置の範囲外であることが明らかな場合には、両親や一般の人々を教育し情報を与えるためあらゆる手段を講じなければなりません。また、子どもが受動喫煙にさらされることの危険性について意識を向上させ、社会が受動喫煙を容認する態度を変化させ、鍵となる保健医療専門家を巻き込み、禁煙支援のための適切なサービスを提供する、などの手段も講じなければなりません。

家庭をスモークフリーにすることは、子どもを曝露から守るばかりでなく、たばこ消費量を抑え、喫煙者が禁煙し禁煙を維持することを助け、また若年者が喫煙を開始するのを抑える、という点からも非常に重要です。

あらゆる場所で、特に開発途上国では、受動喫煙への曝露から子どもを守ることに対する最大の課題はたばこ業界です。

この報告書が広く行きわたれば、世界的なたばこ業界による大規模な偽情報および無節操な先送り戦略に対抗する助けになり、効果的な政策や規制の指針となるでしょう。

しかし、何よりもまず、あらゆる場所で人々が、親、教育者、医療従事者、政策決定者、そして市民というそれぞれの立場から、子どもが健康な大人に成長できる、安全でたばこの煙のない環境を持つという子どもたちの権利を確保するために、この報告書が責任を果たすことを願っています。

報告書によって、子どもが生活し、学び、そして遊ぶ場所で、大人が喫煙するために子どもが危険に曝されることを私たちは痛切に気づきました。子どもは最も曝露を受けやすく、曝露から逃れることができません。彼らは受動喫煙の悪影響から守ってくれる大人に依存しているのです。

彼らは私たち全てが頼りなので、